

ベーリングネフェロメーターⅡ（BNⅡ）による 高感度 CRP 測定の基礎的検討

今泉 陽子¹⁾ 高田乃美子¹⁾ 大久保久美子¹⁾²⁾
今村 一枝¹⁾ 原田 貞子¹⁾ 川島 博信¹⁾
井手口 裕¹⁾²⁾ 小野 順子¹⁾²⁾

1) 福岡大学病院臨床検査部

2) 福岡大学医学部臨床検査医学

要旨：近年高感度C反応性蛋白（CRP）測定法の開発により，慢性炎症が，様々な病態に関連していることが明らかにされてきた。今回我々は，ベーリングネフェロメーター（BN）システムによる高感度CRP測定法が，精度および感度において臨床応用が可能か否かを検討した。本測定法はネフェロメトリー法を原理とし，同時再現性，日差再現性は良好であり，CRP濃度0.1mg/dl付近の変動係数（CV）は3%以下，測定感度は0.02mg/dlであった。この結果は米国食品・医薬品局（U.S. Food and Drug Administration；FDA）の認定した冠動脈疾患予知因子測定法としての基準を満たしていた。高感度CRP測定法の活用により，新生児感染症の早期診断や様々な慢性炎症性疾患の病態把握に利用することが可能である。

キーワード：高感度 CRP，FDA，BN システム，ネフェロメトリー法，慢性炎症性疾患